

★ 提案34の賛成意見 ★

100人を超える無実の人が死刑判決を受けているという証拠があり、実際に刑の執行を受けている人もいます。

提案34は、California州における冤罪による死刑執行を阻止することを意味しています。

Franky Carrilloは、Los Angelesで起きた殺人事件の犯人として16歳の時に誤って逮捕され、有罪判決を受けました。その後、彼の無実を証明するのに20年間もかかったのです。Cameron Willinghamは、2004年にTexas州で放火により子供を殺害した罪で死刑となりましたが、その後の公正な調査により放火犯ではないことが明らかになっています。

「死刑を執行した後で無実だとわかってても、取り返しがつきません」— LaDoris Cordell元判事, Santa Clara

California州の死刑制度はコストがかかりすぎるうえに、修復できないほど破綻しています。

- 1967以来、死刑の執行を受けた者はわずか13人で、2006年以降はまったく執行されていません。多くの死刑囚は老衰で死亡しています。
- 死刑囚の収監と25年もかかる控訴手続きに公的資金を投入し、何百万ドルという税金を無駄にしています。
- 今日、死刑囚はただ時間が過ぎるのを待っているだけです。

提案34は死刑囚に就労義務を課し、裁判所が命じる被害者に対する補償金を支払うことを規定しています。

凶悪犯罪を犯した殺人者は、死ぬまで刑務所に閉じ込めておきます。

無駄に投入されている公的資金を活用すれば、税を引き上げることなく子供たちの学校や殺人犯や強姦犯の検挙に必要な資金として充当できます。

提案34は資金を節約します。

California州は財政難です。多くの人が死刑は仮釈放なしの終身刑よりコストが安いと思っているようですが、それは事実ではありません。

公正な調査によると、死刑を仮釈放なしの終身刑に置き換えることでCalifornia州は5年間でおよそ10億ドルもの節約ができるのです。節約は弁護士費用や死刑囚監房の費用などが削減されることにより創出されます。

http://media.lls.edu/documents/Executing_the_Will_of_the_Voters.pdfを参照ください。

無駄に使用されている私たちの税金には、法執行や学校に充当するというもっと有用な使途があります。

残忍な殺人犯を司法の手から逃すわけには行きません。毎年、殺人事件の約半数および強姦事件の半数以上が未解決です。犯罪者は自由に街を闊歩し、再度犯罪を犯しているのです。私たちが死刑囚に無駄に税金を使っている一方で、多数の被害者が正義を待ち続けています。

残忍な殺人犯には、直ちに裁きを受けさせ厳罰を与え、永遠に刑務所に閉じ込めておく必要があります。

- 提案34は節税に貢献し、強姦や殺人事件の解決に役立つDNA検査や科学捜査などに1億ドルを充当することができます。
- 提案34は、残忍な犯罪者を二度と外の世界に出すことなく死ぬまで刑務所に閉じ込めます。そして労働に従事させ、被害者への損害賠償金の支払いを義務付けます。
- これぞまさしく、有効な正義の形です。

1977年以後、仮釈放なしの終身刑を科された犯罪者は今だ服役中、もしくは刑務所内で死亡しています。つまり、仮釈放なしの終身刑は十分機能しており、これでCalifornia州で免罪により死刑に処される者はいなくなります。

「死刑は、私たちの生活をより安全にし、犯罪検挙率を向上させるものではありません」— John Van de Kamp, 元司法長官

「Willinghamのように、無実の人が死刑に処されるような事件には胸を痛めています。California州で二度と冤罪で死刑が執行されないよう、提案34に賛成します」— Flores司教、San Diego教区

提案34に賛成してください。

GIL GARCETTI, 地方検事

Los Angeles郡, 1992–2000

JEANNE WOODFORD, 刑務所長

California州死刑監房刑務所, 1999–2004

JENNIFER A. WAGGONER, プレジデント

California州女性投票者連盟

★ 提案34の賛成意見に対する反論 ★

California州の死刑囚監房に無実の在監者などいない (JERRY BROWN)—*San Francisco Chronicle*, (2012年3月7日付)

提案34の賛成派は切羽詰っており、票を獲得するためなら何でも言います。世論調査によると死刑は圧倒的な支持を得ているため、賛成派は意図的に「無実」や「犯罪解決」、「資金の節約」といった誤解を招くような言葉を使用しているのです。

だまされてはいけません。

「提案34はCalifornia州の一般財源から1億ドルを奪うものです。その資金は提案実施により実現する節約分からであるという賛成者の主張は真実ではありません。提案34は納税者の年間負担を増大させ、終身刑の服役囚に住む場所とヘルスケアを保証するにすぎません」— Mike Genest, 2005–2009年度California州財務局長

提案34の支持者は州民発案を擁護するどころか、それを欺く行為です。

提案34が述べる「就労義務」は、殺人者らに運動する機会を与えるに過ぎません。

無罪を勝ち取ったFranky Carrillo . . . 彼が死刑判決を受けたことはありません。

California州には「死刑囚専用の刑務所」など存在しません。あるのはSan Quentin州立刑務所です。

賢い有権者は提案34の支持者が、死刑撤廃のために何十

年にも渡って働きかけていることを知っています。彼らは税金の番人ではなく、逆に司法コストを吊り上げようとしているだけです。

「提案34は死刑囚である殺人者により死に至らしめられた被害者の家族をさらに痛めつけるものです。California州の主要なすべての法執行機関は提案34に反対します」— Scott Seaman, プレジデント, California州警察署長協会。

殺人犯を勝たせるわけには行きません。Scott Petersonは妻のLaciと胎児を無常に殺害した罪で死刑を宣告されています。妻や胎児には何の罪もありません。

43名の警察官を含め、私たちを守るために殺されてしまった被害者を忘れてはいけません。より安全なCalifornia州を目指して立ち上がりましょう。

提案34には反対です。

CARL V. ADAMS, プレジデント

California州地方検事協会

KERMIT ALEXANDER

Los Angelesギャングメンバーにより殺害された被害者家族

RON COTTINGHAM, プレジデント

California州保安官研究協会

★ 提案34への反対意見 ★

California州は財政難であり、死刑が撤廃されると今後4年間で納税者に1億ドル、長期的にはさらなる負担を課すものです。裁きを受ける代わりに、殺人者は住む場所とヘルスケアというメリットを生涯享受するのです。

提案34は節税にはなりません。公共安全法を弱体化させるACLUの計略であり、犯罪者を司法の手から救うことを正当化させるための苦肉の策です。有権者を納得させるために、節税を謳っているのです。

ACLUの行為に弁解の余地はありません。これは被害者遺族にとっては残酷で、有権者を惑わせる侮辱的な仕打ちであり、California州を危険にさらします。

提案34は、連続殺人犯、警官殺し、子供や老人といった弱者を殺害する犯罪者に正当な裁きを下すものではありません。賛成者は、以前California州で死刑が撤廃された時に、死刑囚が釈放され再度強姦や殺人を犯した過去の事実を認識していません。

有権者は死刑を復活させ、正義を取り戻したのです。

以下に事実を列挙します。非道な殺人を犯した犯罪者で、法律に従う州民である陪審員による満場一致の死刑判決が下されるのは2%以下です。

Richard Allen Davis: 12歳のPolly Klaasを誘拐し、強姦、殺害。

Richard Ramirez (異名: ナイト ストーカー): 子供や老人を含む14人の誘拐、強姦、拷問、遺体切断および11人に対する威嚇行為。

Ramon Sandoval (ギャングメンバー): 警官Daryle Black (元米国海兵隊員)およびRick Delfinを待ち伏せし、AK-47小型小銃で狙撃。Black氏は死亡、Delfin氏は頭部を撃たれ、ひとりの妊婦が怪我を負った。

Robert Rhoades (連続殺人者): 児童強姦犯、8歳のMichael Lyons誘拐。誘拐した児童を10時間に渡り強姦、拷問し、70回以上も刺したうえ喉を切り裂いて遺体を川に遺棄。

Alexander Hamilton: 警官Larry Lasater (退役軍人、元海兵隊戦闘員)殺害。当時Lasaterの妻は妊娠7か月であった。

死刑に値する殺人の被害者:

子供225名

警察官43名

強姦/殺人の被害者235名

拷問/殺人の被害者90名

問題となるACLU: 彼らは死刑制度は崩壊しており、コストがかかりすぎると主張していますが、まったくの偽善です。ACLUと支持者は、法の公正な執行を遅延させ、阻害しています。OhioやArizonaといった他州では、犯罪者に完全な権利を与え、公正に死刑を執行しています。California州でもこれが実行できるはずですが。

党利党略: 提案34を宣伝するうえで、支持者らは新聞の見出し、ACLUやその他の死刑反対者による「調査」に基づいて費用に関する主張をしています。

矯正更正局のデータは、死刑を廃止すると長期的な費用が増加すると述べていますが、これは単に囚人の収監およびヘルスケアに関するものです。納税者は、ためらいもなく子供や警官、親を殺してしまうような有罪判決を受けた殺人者に、年間少なくとも50,000ドルを投じることになります。

残忍な殺人者らに生涯に渡り住む場所とヘルスケアを提供するところが、節税に繋がるのでしょうか。そんなはずはありません。

これが提案34の賛成者が、有権者には知らせたくない事実です。それはお金の問題ではなく... 彼らの政治的策略なのです。

California州の検事、警察官、犯罪被害者、地域リーダーは、提案34への反対を呼びかけています。ACLUの策略を阻止しましょう。死刑制度を維持することは、California州を守ることです。

waitingforjustice.netをご覧ください。私たちと一緒に提案34に反対票を投じてください。

HON. PETE WILSON

元California州知事

MARC KLAAS

12歳の被害者Polly Klaasの父

KEITH ROYAL、プレジデント

California州保安官協会

★ 提案34の反対意見に対する反論 ★

提案34により、California州における冤罪による死刑執行を阻止します。

California州の死刑制度はコストがかかりすぎるうえに、修復できないほど破綻しています。

次の事実を確認ください。

- 本投票者ガイドの公正なコスト分析では、提案34は毎年数百万ドルの節約ができると言っています。ご自身の眼でご確認ください。

- 法執行機関のリーダーおよび検察官はCalifornia州の死刑制度は破綻しており、仮釈放なしの終身刑に比べると数百万ドル以上のコストがかかると述べています。

<http://lccfaj.org/rr-dp-official.html>を一読ください。

- 提案34は、死刑囚専用の収監システムや弁護人、独房にかかる費用を削除します。これらの無駄に使用していた税金を学校に充当する必要があります。

「California州の死刑制度に修正の余地はありません。破綻した制度に無駄に資金を投入するのではなく、教師や警察官、消防士といった、より有用な使途に活用すべきです」

—Carlos Moreno, California州最高裁判所元判事

提案34は犯罪者を捕らえ、処罰します。そして次を実現します。

- 残忍な殺人者を、釈放することなく、死ぬまで刑務所に閉じ込める。

- 殺人者に就労義務を負わせ、判決で言い渡された被害者への損害賠償金の支払いを命じる。

- 税金を節約し、強姦および殺人事件の解決に向けた法執行に1億ドルを充当する。殺人事件の46%、強姦事件の56%は未解決であり、一方では服役中の一握りの犯罪者に多額の税金を使っています。

1977年以後、仮釈放なしの終身刑を科された犯罪者は今だ服役中、もしくは刑務所内で死亡しています。

米国では、100人を超える無実の人が死刑判決を受けているという証拠があり、実際に刑の執行を受けている人もいるということを忘れないでください。

提案34により、California州における冤罪による死刑執行を阻止します。

これが正義です。

提案34に賛成してください。

市長、ANTONIO R. VILLARAIGOSA

Los Angeles市

HON. JOHN VAN DE KAMP、司法長官

California州、1983-1991

LADORIS CORDELL

Santa Clara郡上位裁判所元判事